

## メバル釣り

海の安全推進アドバイザー 小野信昭

メバルには多くの種類が存在し、水深が浅いところに棲息するものもあれば、深いところに棲息するものもいます。

浅場に棲息するアカメバル、クロメバル、シロメバルは春に釣りのシーズンを迎えるので春告魚(はるつげうお)とも呼ばれています。これら3種は水深が浅い沿岸部に棲息しているのでボートで沖合へ行く必要がないことから小さなボートでも手軽に狙うことのできる身近なターゲットとして人気があります。



春は沿岸部でメバルが狙えます



定番料理は煮付、最高に美味です

主な棲息場所は水深 5～30メートルの岩礁やゴロタ石、海藻など身を隠すことのできる場所で、そこに棲むエビやカニなどの甲殻類や小魚を捕食します。日中は海底から2メートルの範囲までが遊泳層となりますが、夜間は海面付近まで浮上し、活発にエサを追います。

日中は海底付近を狙うことになるので岩や海藻に根掛かりさせないように釣る必要があります。特に風や潮流によってボートが流されてしまうと根掛かりしやすくなるので注意が必要です。そのためには仕掛けは無闇に漂うことがないように一番下にオモリをぶら下げる胴付きタイプのもを使用します。

シーズン真っ盛りとなる春先にボートからメバルを狙う際には根掛かり以外にも注意しなければならないことがあります。それは沿岸部の海面付近を漂う海藻類が船外機等のプロペラに絡みやすくなることです。

特に3月～5月は沿岸部の海面にはアカモクをはじめとした多くの海藻類が漂い、前方をしっかりと確認しながら走航しないとプロペラに絡めてしまいます。海藻類がプロペラに絡んだり、プロペラシャフトに巻き付いたりすると、本来の推進力が発揮できないばかりか、エンジンが停止したり、冷却水の給水口を塞いでオーバーヒートになったり、最悪の場合にはエンジンの焼き付きにも発展します。

海面付近の海藻類は海面と似たような色なので発見しづらく、また小さなボートでは操船席の着座点が低いことから大きなボートに比べてより発見しづらくなります。

また、絡んだ海藻類を取り除くためには船尾側から身を乗り出す必要があります。船尾側の乾舷が少なくなることで海水が打ち込みやすくなるのと、ボートがバランスを崩して転覆しやすくなります。

とにかく海面に海藻類が多い場所で航行する際、そして絡んだ海藻類を取り除く際には細心の注意が必要です。



プロペラに絡んだ海藻類の除去は細心の注意を